

2026年8月7日

各 位

会 社 名 株式会社アートフォースジャパン
(コード番号 5072 TOKYO PRO Market)
代 表 者 名 代表取締役社長 山口 喜廣
問 合 せ 先 取締役経営統括本部長 野崎 昭彦
電 話 番 号 0557-45-1109
U R L <https://www.artforcejapan.co.jp/>

第2四半期(中間期)業績予想と実績値の差異に関するお知らせ

2026年2月13日に公表いたしました2026年12月期中間期連結会計期間(2026年1月1日～2026年6月30日)の業績予想と、本日公表の実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2026年12月期第2四半期(中間期)連結会計期間(2026年1月1日～2026年6月30日)の業績予想と実績値の差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益	1株当たり 中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,098	45	24	28	115.45
当中間期実績(B)	3,692	30	17	25	100.12
増減額(B-A)	593	△15	△7	△3	
増減率(%)	19.1	△33.6	△28.5	△13.3	
(ご参考) 前中間期実績 (2025年12月期中間期)	2,494	38	25	100	402.07

2. 差異の理由

当中間期連結会計期間につきましては、第1四半期連結会計期間から、報告セグメントとして新設いたしました「基礎工事業」を除いた既存の報告セグメントの売上高は当初予想より15百万円下回る結果となりました。一方、利益については、資源及び原材料価格の高騰と技術者の高齢化による働き手の減少等の課題に対処すべく、売上原価率の上昇を抑える様々な施策を実行し縮減に努めた結果、売上原価は当初予想より12百万円を下回り、売上総利益は3百万円下回る結果となりました。販売費及び一般管理費は売上原価と同様に諸経費の縮減等に努めた結果、当初予想より34百万円減少いたしました。子会社(株)藤野興業の株式取得による取得関連費用74百万円を計上が発生したため、営業利益は当初予想より15百万円下回り、30百万円の営業利益となりました。経常利益はシンジケートローン手数料13百万円が発生した結果、当初予想より7百万円下回り、17百万円の経常利益となりました。特別損益は、投資有価証券売却益82百万円を計上した結果、親会社株主に帰属する中間純利益は、法人税等が当初予想より57百万円増加したため、当初予想より3百万円下回り、25百万円の親会社株主に帰属する中間純利益となりました。

なお、通期の連結業績予想につきましては、円安の進行と海外情勢の緊迫化等の地政学リスクに伴う資源価格及び原材料価格の高騰が継続しているほか、中東情勢の不安定化によるナフサ等の建築資材不足に関する今後の影響などに加えて、物価上昇による個人消費への影響や住宅着工戸数の推移など、景気への影響が不透明な状況が続くものと見込まれることから、現時点で合理的に算定することが困難であるため、2026年2月13日に公表いたしました連結業績予想は修正しておりません。但し、今後、合理的な算定が可能となった時点で修正が必要となった場合には、速やかに公表いたします。

※上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績は様々な要因の変化により、予想と異なる場合があります。

以上